

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

地獄

- 碧 猫 総 集 編 -





収録作品

- | | |
|---------------------|----|
| ◆コメイジスケジュールAM | 3 |
| ◆コメイジスケジュールPM | 31 |
| ◆地霊殿ハーレム -closed β- | 62 |
| ◆さとりの居ぬ間に。(描き下ろし) | 73 |

コ スプレ ィン ル AM



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

も せ あ も
と が い つ
め み し れ
あ あ い あ
う い い い

鼻を擦ぐる
珈琲の香り

AM 6:45

深い微睡みから
覚醒へと導かれる

おはよう
ごちます

朝一に会うのは
無償の愛を
捧げてくれる
最愛の存在

よく
眠れましたか？

……
それはよかった

答えるまでもなく
彼女は
人の心を読み

一人で納得し
微笑みかけてくる

カップを一つ
受け取ると
香りが鼻を抜け
頭が段々と冴え渡る

実に爽やかな
朝であった

もし？
さとりさんや？
何をしてらっしゃる
のでしょうか？

いえ……

珈琲にミルクを
入れるのを
忘れてまして

ちよつと
因果関係が
わかりかねます

彼女が私の股座を
弄り回そうとして
いなければの話だが

まあ
なんと
言いますか

「いちご」も
朝は
大変でしょうか？

せっかくなので
恋人らしく
処理してあげようと
思いました♡

あちなみに
私の手には
あなたのモノと

熱々の珈琲が
握られている事を
お忘れなく

ご無体な

彼女の
白く細い指が
愚息を這う

小さく
可愛らしい舌で
丹念に舐め取られ

朝の冷たい外気と
熱い吐息が溶け合い

唾液で濡れた部分が
その空気を敏感に
感じ取って
心地よい快感となる

そのまま愚息が
さとの舌と口で
弄ばれていく



単に朝だから
血が巡って
いるのか

それとも小さい子に
朝立ちを
処理させている情景に
興奮してるのか



どちらにせよ
いつもより
早めの射精を
余儀なくさせる

真っ白な欲望を
クチュクチュと
楽しそうに
口内で弄んだ彼女は――



しばらくの後
自分のカップにへと
精液を吐き出した



精液入りの
コーヒーを
ぐるぐるとかき混ぜ



何事も
なかつたかのように
爽やかな
朝の続きを嗜む



……あなたも
いかがですか？

……あら
それは残念

心を読まずとも
分かっている問いを
投げかけられた

恋人の異常な偏食に
少し呆れながら
身支度を整える



意外にも
自由気ままな
地霊殿の生活が
見え始めていく

朝食も摂り終わり
各自今から
起きてきたり
お勤めに向かったりと

AM 7:48



朝の口付けだけは
欠かさずに
求めてくるので
応えてやる



しかし
彼女たちは
皆揃っては



以前は朝から
身体を重ねることも
少なくなかったが

さとりが
節制するよう
無言で聞かせてからは

さとりだけが
こっそり
求めて来る時も
あるのは秘密だ



地霊殿での
お仕事が始まる

主に彼女の側で
事務仕事を
お手伝いをするのが
おおよそ毎日の業務だ

AM 9:21



だが実際のところ
事務仕事ができる
ような人材が

この地霊殿で
自分と彼女ぐら
いしないのも事
実であり



身寄りもない外
の人間が妖怪の
元で働くとなると
精一杯なのであ
る



やっている事は
外の世界と
あまり変わら
なくとも
自分が貴重な
戦力だと
自覚できるのは

負い目を
感じる事
もなく
それなりに
幸福であ
ったし



恋仲となつた
キツカケである
手伝いを申し出た時

泣いて喜ばれる
ほども覚えて
いる



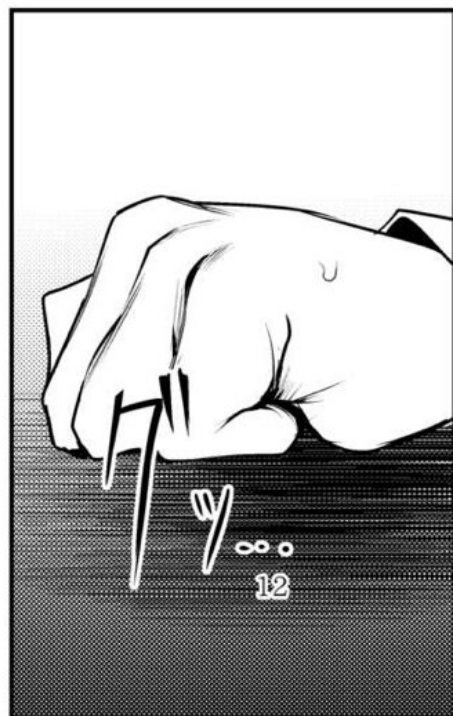
仕事の場でも
恋人と二人きり
という環境は



彼女にとっても
願ったり叶ったり
なのだろう



ただ



二人っきりなのは
彼女の範疇での
視界の範囲が
話なのだが

最初から居たのに
気づかなかつた
訳は無く

無意識下に股座へと
潜り込んだこいしに
愚息をしゃぶられる





流石に
限界だっ
たのか
口内で
受け止
めきれ
ず

愚息から
口を離し
たい欲が
こいしに
飛び散ら
か



一日が始
まった
可愛い姉
妹を両
方共
汚しあ
げてし
まった



こいしは
丁寧に
顔をす
くいた
取り
精液を

愛おし
そうに
見せ
つけて
くる

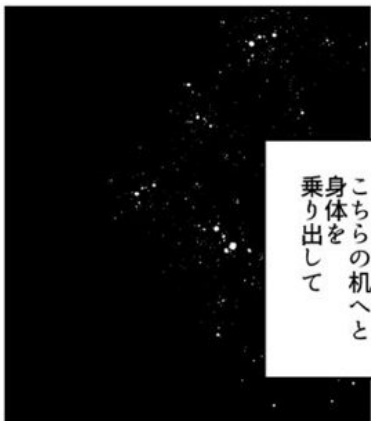


そう言うと
彼女は席を立ち



少し休憩を
いれましょうか

……
大丈夫そうでは
ありませんね



こちらの机へと
身体を
乗り出して



よいしょ……



……
どろろ
お好きな
ように

どうぞと
言われまして

こいつまでも
そこに居ないで
出て来なさい

……そもそも
隠し事が
できないなんて
ことでは
しょう

ほら……

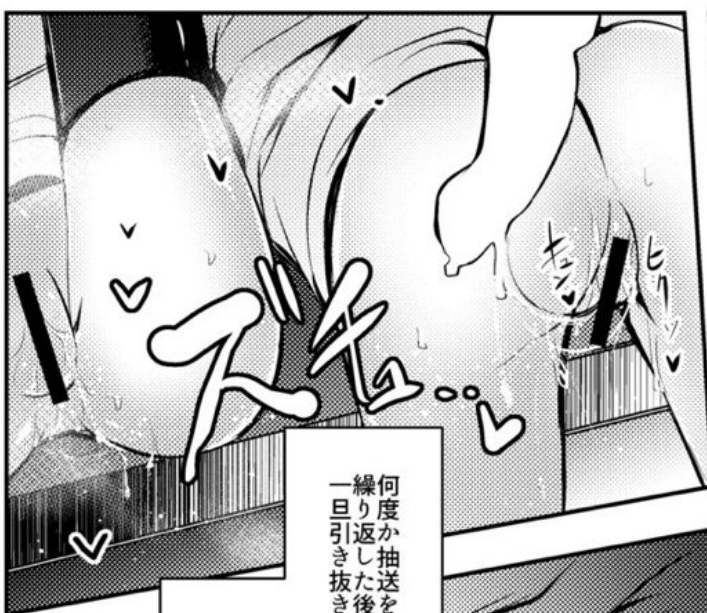
AM 9:49

遠慮しないで
構いませんよ



幼い秘裂を
こじ開けるように
挿入する

さとのりの
折れそうなほど
細い腰を驚掴みにし



何度か抽送を
繰り返した後
一旦引き抜き



今度は
こいしの秘裂に
狙いを定める



机に押し潰すような
格好で最奥まで
突いてやると

見る見るうちに
快楽へと
飲み込まれて
いくのが分かる



姉と妹の膣内の
感觸の差を
味わいながら

欲望のまま
相互の秘裂へ
交互に挿入する



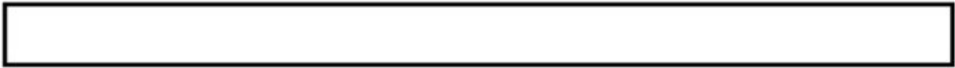
突く度に
ぶらぶらりと動く
まるで人形のように

姉妹を
性処理道具のように
扱っている
感じがして興奮する



二人は子宮まで
精液で満たされた事に
快びの嬌声を
漏らしていた

好き勝手に
腰を打ち付けた後
二人の膣内へ
欲望をたっぷり
注ぎ込んだ



AM 10:31

二人の頭を
優しく撫でながら
背徳的な光景と快楽を
十分に堪能した

顔と同程度の
大きさもある愚息に
こびりついた精液を
姉妹で取り合うかのよう
に舌を這わせてくる

行為を終えた後
二人に
お掃除してもらおう

報告と
連絡の元へ



放っておけば
ずっと解放して
くれなさそうなので

仕事を理由に
なんとか
二人から抜け出す

AM 11:06

まあお茶でも
淹れるから
ゆっくりに
していいよ



おや、お兄さん
お疲れ様ー

ドサッ

朝からの営みで
身体が結構
重かったの
お言葉に
甘えさせてもらう

ソファに
深く腰を降ろし
息をつく

報告書と
連絡要項
届けにきたよ

ういうい
そこら辺に
置いていてー



お憐がそのまま
流れるように
膝へと
乗り上げてくる

頬を擦り付けて
しばらくの間は
動かないぞと
間接的に宣言された

スリスリ

トッ

トッ



一言何か
言おうとすると

そのまま
口を塞がれ
なし崩しにソファへ
押し倒された

キョク



さつきまで
抱いていた姉妹には
存在しない

膨やかな双房が
ふにょんと
押し付けられ
興奮してしまう



んふ...♡
正直な反応だね

あたいの身体で
感じてくれて
嬉しいな...♡



両手は弾力のある胸に導かれて

キスもより一層激しいものになる



あ!!!

このまま抱いてしまおうと姿勢をかそとした時



お隣ダメだよー!

さとり様から勝手にえっちしちゃダメって言われてるのにー!



お空う……

もうが悪い

ちゃんとお仕事しないとダメだよー

またさとり様に怒られちゃうよ？

あいやいやサボってわけじゃあないさ

お兄さんが職場の立場を利用して身体を要求してきたから仕方なく応えてるだけだよ

息をするかのよう
に評価を落とされた

というかお嬢さんと最低野郎なんです

姉妹両方お手つきにしてる時点で何言われてもお兄さんはいよ

そうだお空も混ざりなよ

お兄さんもその方が嬉しいってさ業務上の命令だから大丈夫大丈夫

まー巻き込んでお嬢さん

うん！それなら混ざるー！

少しお嬢に物申したかったが

ま、えっちな匂いさせながら人の仕事場来る方が悪いってことで

ごもつともだった



後ろからお
お燐を抱え上
げ待ち構えて
いた愚息で
貫く

匂いに当て
られていたか
ら秘所は十
分に濡れて
おり

身体をビク
ンと跳ねさ
せつつも
最奥まで
入れてく
れた



時折漏れる
鳴き声を
楽しみな
がら

身体を
隅々まで
愛撫し
膣内を
犯して
いく



はーいお兄さん♡

おっばいだよー♡

服を肌蹴させ
無邪気に
乱入してきたお空が
圧倒的質量を
目の前につきつけてくる



たわわな実りを
口いっぱい頬張り
乳首を舐り
夢中でしゃぶりあげる

美味し〜♡

くらくらするほどの
甘い香りと味が
頭一杯を支配して
蕩けるように心地よい



彼女たちの
献身的なご奉仕に
五感も愚息も快楽に包まれ

射精に導かれるまで
そう時間は
かからなかった

各々が絶頂を迎え
身体をびくびくと
可愛らしく撥ねさせる



あん…♡

次い…
私にもしてえ…♡

あたいの身体
良かったかい…?

抱かれるのを
ねだってくる
二人を両脇に抱え
楽しんでいと



思いついたら



お仕事中に随分と楽しんでるようである

……ところでお話があるのですが

あ

げ

PM 12:00

この後お空を抱いて二回射精した後お昼ご飯は抜きになった。午後の業務が憂鬱である。
29

……にゃーん

ではお隣その間に貴女とお話を済ませましょうか

構いませんよ

……お空を抱いた後でもいいですか？

地獄のみしか知らずにいるのは紛れもなく地獄である。
天国のみしか知らずにいるのも紛れもなく地獄である。

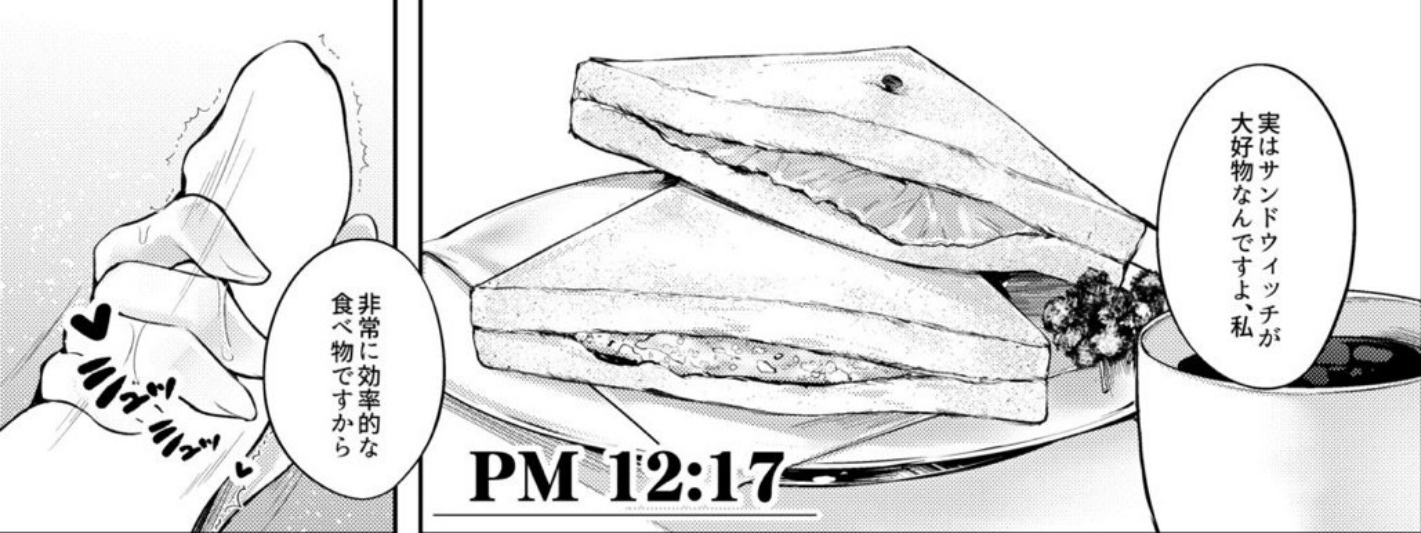
地獄を知り、天国を知る者のみが、楽園へと辿り着けるのだ。

コ スプレ ィン グ ル PM

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

まほらはここに在った。



非常に効率的な食べ物ですから

実はサンドウィッチが好物なんですよ、私

PM 12:17



食べながら仕事でもポーカーでも……

片手で食事を摂りながらもう片方の手で別の事もできる



恋人へのご奉仕でも、ね？



さとのりの小さな手が
優しく愚息を這う

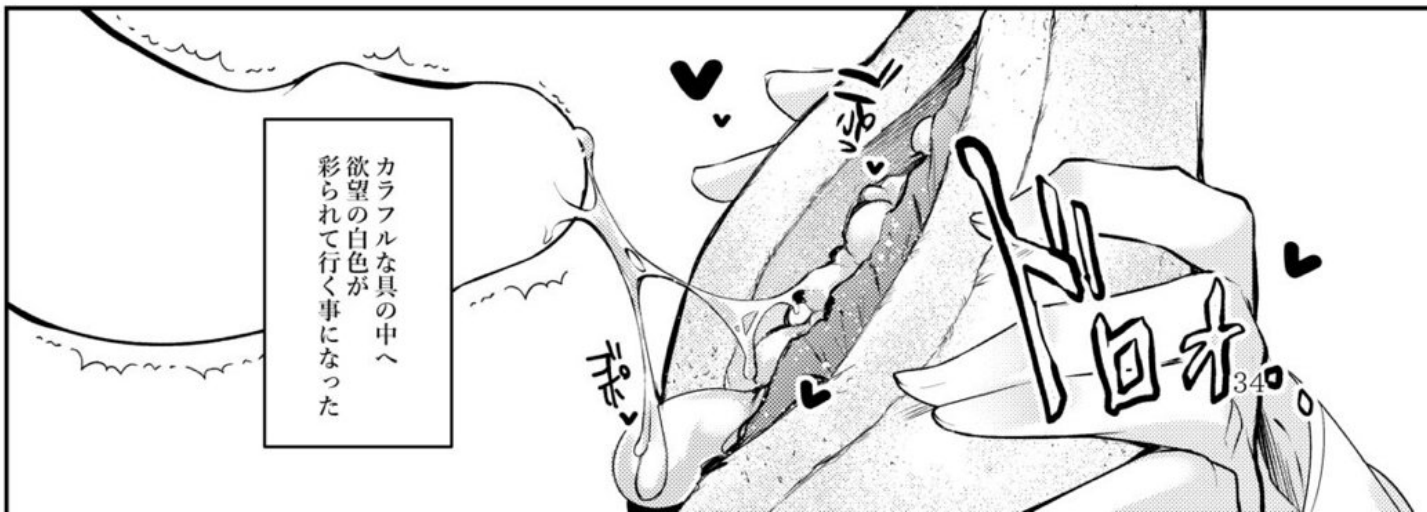
激しさもなく
好きな時に果ててもいいと
言わんばかりの
ねっとりとした
刺激に耐えきれず

うっ



彼女の顔に欲望を
吐き出そうとした瞬間

ビクンと跳ねた
愚息は薄切りのパンに
ぼっくりと包み込まれ



カラフルな具の中へ
欲望の白色が
彩られて行く事になった



精液が溜まったおよそもう
食べ物と言いたい「それ」を
平然と口へ運んでいく



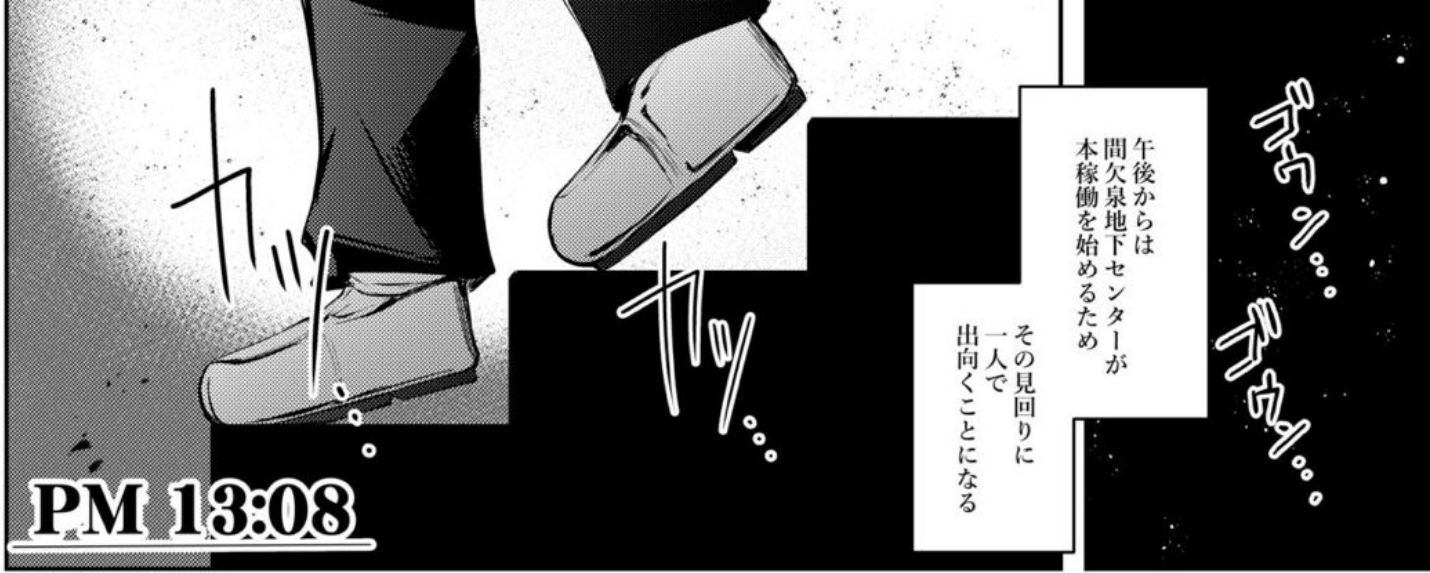
そんなの
気になりませんよ

溢れた欲望で顔を汚しながら
うっとりとした顔で
味わい嚥下していくさどりに
「汚いですよ」と申し出ても



あなたの汚いところも
全部ひっくるめて
愛してるんですから

そう
返されてしまった



PM 13:08

午後からは
間欠泉地下センターが
本稼働を始めるため

その見回りに
一人で
出向くことになる

カッ...
カッ...

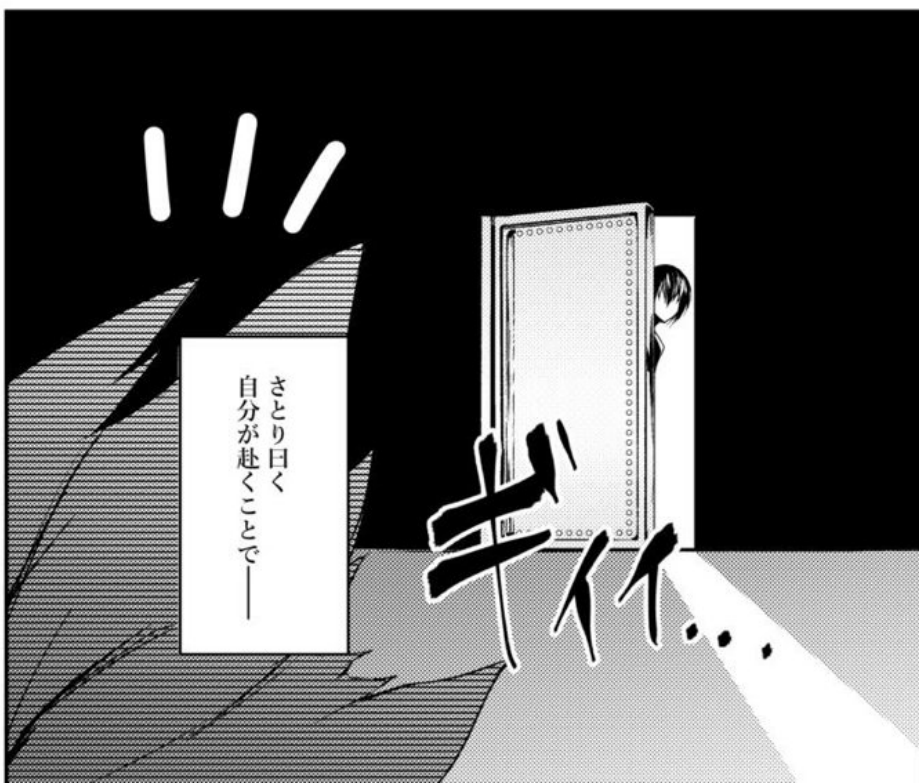


本格的な管理自体は
山の神様や河童などが
徹底してくれているし

そもそも核融合なぞ
何の装備も持たない人間の
手に負える代物ではない

ガッ...

シュー...



さとり曰く
自分が赴くことで

ギョッ...



それでも
この見回りを
任されているのは

ガ

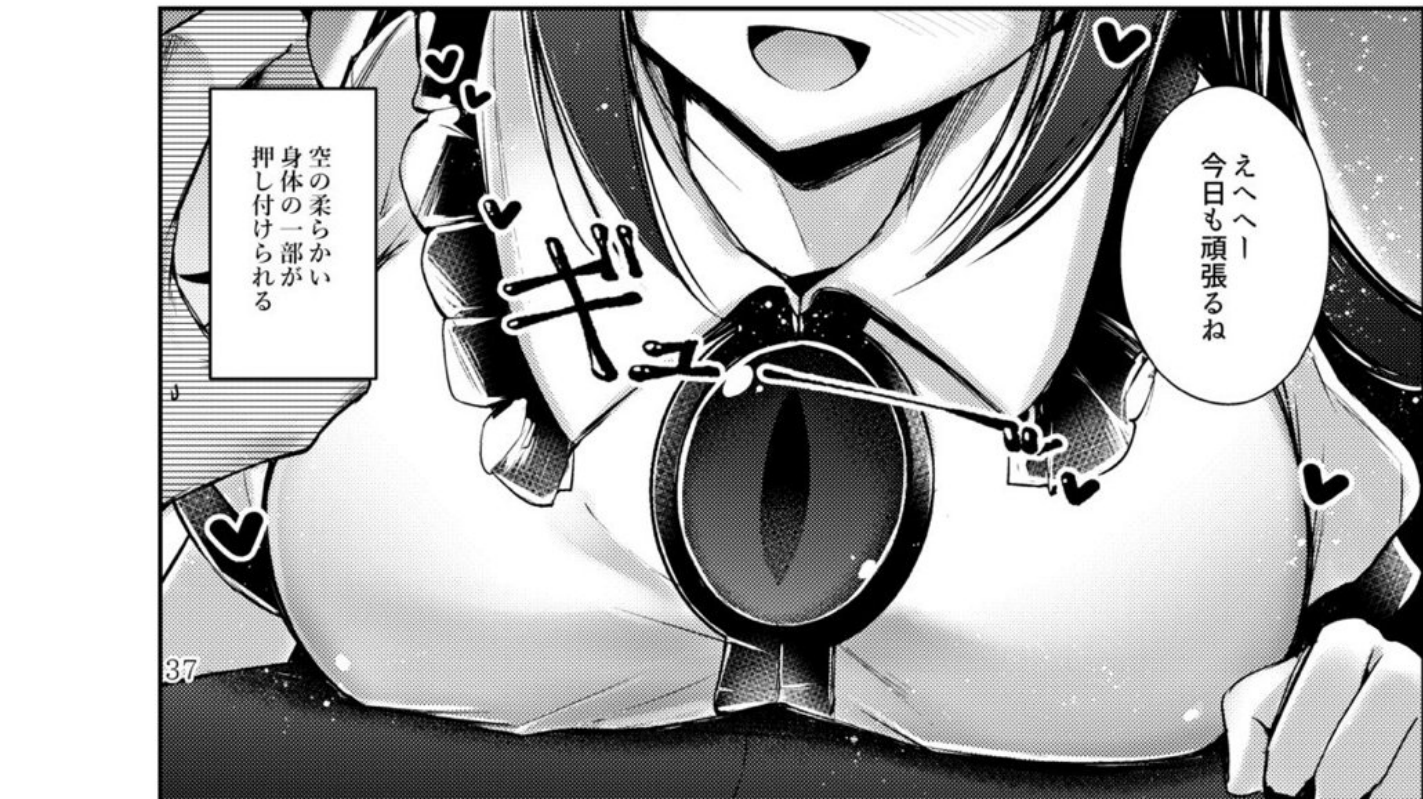


「お空の作業能率が
桁違いになるから」
という話のよう

効率的な
彼女らしい提案だ



おにーさん！



えへへー
今日も頑張るね

空の柔らかい
身体の一部が
押し付けられる

つい形の良い
おっぱいに
手が伸びると

この無邪気さと
豊富な身体を
普段から堪能していると
考えてしまい
下半身が反応してしまう

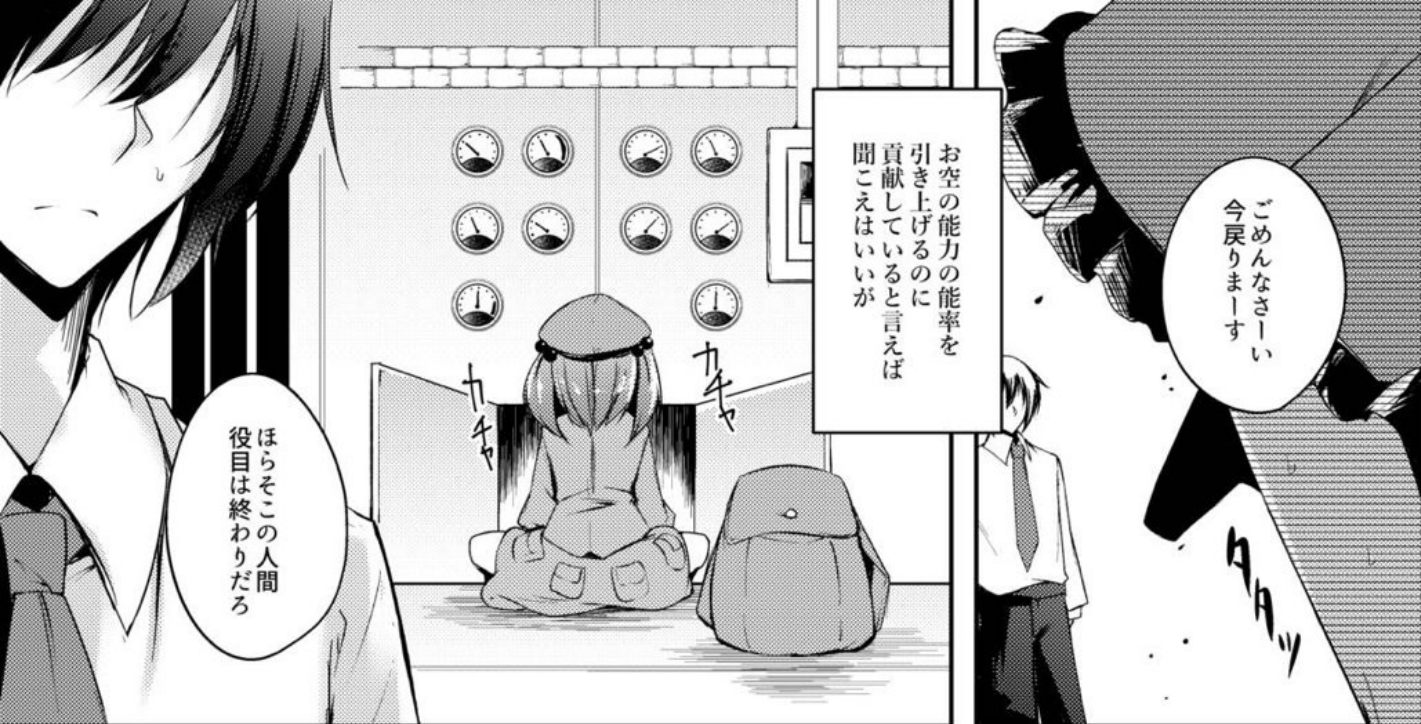
あ、おっぱい
したいのっ

ちゅんちゅん

おい
炉内の数値が
不安定になつてんぞー

また
あの人間が
来てんのがあ？

ありや



ほらその人間
役目は終わりだろ

お空の能力の能率を
引き上げるのに
貢献していると
聞こえはいいが

ごめんなさい
今戻りまーす



ただでさえ不安定故に
監視が必要なのに

さらに安定が崩れる
要因であるというのも
事実なため

危ないから部外者は
とつとと帰れ帰れ

現場からは
あまりいい顔を
されていいない



そのため
投げられる冷たい視線が
理不尽な因縁になる前に
その場を離れる事にする

まあ
この嫌な視線の
一番の理由として
思い当たるは



かつて炉内で
ついそのままお空と
セックスした時に――



あれは流石に
巫女さんにも
怒られたので
反省はしている



あわや大惨事を
引き起こしかけた事が
原因なのだろうが



地下のセンターが
本稼働を始めた事により
地霊殿にも少なからず
熱が籠り始める

暑い

PM 15:42



全て
書類に描かれた
基準値内なのを確認

各排熱機器や
その周囲の室温などに
問題ないか
チェックをして回り



さとりへ
報告するべく部屋へ
足を踏み入れると



失礼します

そこには
原始の手段で暑さを凌ぐ
幼い裸族が二人
へばっていた

お疲れ様です

……
お疲れ様です

いやあ
こう暑くては
仕事になりませんね

そうは
思いませんか
こいし

お姉ちゃんの
言う通りー

排熱機器の稼働率には
余裕があるんですから

暑いのなら見直しを
検討するべき
なのは

何事も節約と――

はだけた衣服から
局部がチラチラ見えるように
わざとらしく手で仰ぐ

休憩は大事ですよ
あなた

地霊殿の主としての矜持なのか
どうも仕事中に堂々と
自分から求めるというのは
したくないようで

こうして非常に
あけすけなアプローチで

「お仕置きだから仕方なく」
「求められたから仕方なく」
といった形にしたいらしい



妹の方に關しては
室内ですっほんぽんで
居ること自体が
なんかもう
楽しくなっているようだ



そんな
自尊心が高いところは
彼女らしく
とても愛らしいのだが

この室温では
さとのり身体の方が
心配である



……ご無理
なさらないで
ください



...あら
気遣って
頂けるのですか

汗だくの中
貪り合うのも一興とは
思いましたが

そう
耳元で囁かれ



体液を撒き散らしながら
欲望のまま身体を求め
好き放題に二人を犯す
光景が脳裏によぎる



ほんの瞬間のことだが
心を読む彼女に
見逃されるはずもなく

...せっかくお気遣い
頂いてることですし
今はやめておきましょうか

含みのある笑顔で
ニタリとされる



こいし
そろそろやめなさい

はい

それでは……



残りのお仕事も
頑張ってください
あなた♡

そんな激励と
ご褒美のキスを
ほったたに一つ貰う



……ただ
夜はいっぱい
愛してくださいね……♡

毎晩のように
愛し合っているにも
関わらず

こうした夜伽の約束を
律儀に交わしてくるのは
彼女の可愛らしい癖である

キスを貰ってからの
多少のニヤけ面を
気にしつつも
今日の分の仕事は
滞りなく終わり

一服でもしようと
休憩室に向かうと



猫耳の先客が
ソファで
うろうろしていた

んあ……

どうもおにーさん
お疲れ様ー

お疲れさま

PM 17:05

最近この時間帯の
お隣はいつも
こうである



自分がさよりの仕事を
手伝うようになり
今まで忙殺され
行き届いてなかった

地霊殿内における
管理の目が
行き渡るように
なった結果



要領良くサボったり
休憩していた者の
精神的な疲労が
増えているらしい

お隣も適度に
そういった事を
楽しんでいたらしく

仕事が終わる時間帯には
もうこうして
疲れ果てている事が多い



そうすればその時間は
抜き打ち監査が来る
心配がないわけで

うん



…こうお兄さんが
仕事中定期的に
さとり様
抱くとするじゃん

うん



…完璧じゃね

そーだねー



お兄さんは抱けて幸せ
さとり様は抱かれて幸せ
私はサボれて幸せ

うん



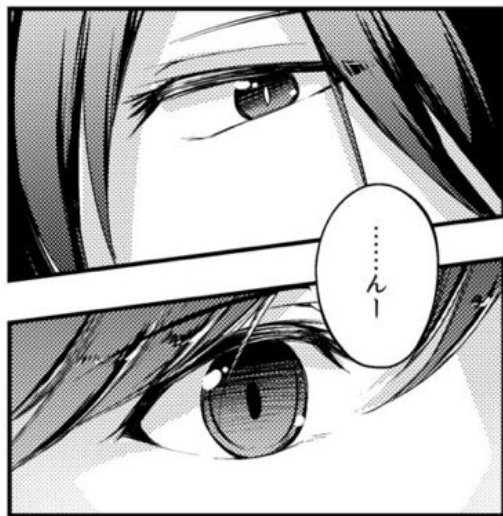
そしてお隣が
膝の上に来て
抱きついてくるのも
何時も通りである

ちよーつと
お兄さん分
補給させてねー



至極甚だ悉く
これ以上ないほどに
無意味な会話が
交わされる

いつも通りだ



……んー



……あたいたちも
煙草休憩みたくにさ
定期的にこうするのは
許してくれるかな？

どうだろうなあ



押し付けられた
柔らかい身体を
優しく抱き返してやる

さとり様も流石に
都合が良すぎると
思うんだよー

毎日の休憩と称して
自己主張の激しい
お隣の身体を好きに抱く

外の世界で言えば
フレックスタイムと
言う奴だろうか

職場で合法的に
同僚とセックス
するような

そんな光景を
少し想像して
しまったら

あはは
朝あんなにしたのに
元気だねえ
お兄さん

先刻の生殺しも相まって
予想以上に
愚息が反応してしまった

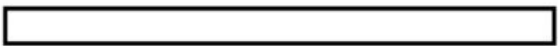
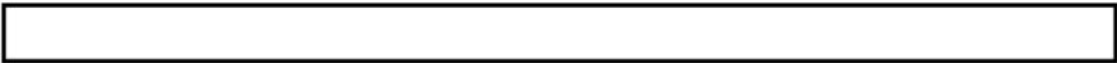


大変魅力的なお誘いだか
疲れてるところ
無理させるのも悪いので
やんわりと断っておく

その分長めの抱擁で
お隣の匂いと身体を
十分堪能する事にした



どうするー？
今ならあたいの身体
好きに使っていいよ？



一日ぐらい
我慢しても
別に死なないのにー



PM 19:18

猫の毛づくろいって
かなり綺麗になるんだよ
ホントだよ

いやほらさー
あたいは自分で
毛づくろいしてるし



うんそうだ
ここは一つ
交渉と行こうじゃない
お兄さん

お風呂やだよー
水浴びだけで
いいでしょー？

きつとそつちにも
悪い話じゃないはずだ
ねえ聞いている？

昨日も
入ったんだから
今日ぐらい
いいじゃん！



夕飯も終え
入浴の時間

暴れるお燐とお空を
両脇に抱え
風呂場へ放り込む

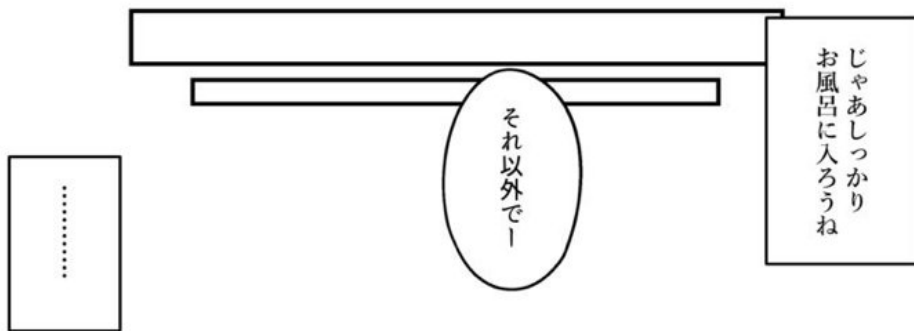
ポイ




猫と鳥というのもあってか
この二人はどうも
お風呂が嫌いな様子

カポーン。

もちろん自分が
一緒に入ってあげる方が
必死の抵抗が少ないからとの事で
さとりから任されている






試しに
「泡踊りしてくれたら
上がっていいよ」と
冗談を飛ばしてみると

即座に押し倒され
ご奉仕を始められた

とびきり贅沢な
二つのスポンジが
粘り気のある音を立てて
身体へ擦り付けられる



二人からは
「湯浴みを
早く済ませよう」
という意思が
感じられるが



あのまま大人しく
湯船に浸かってた方が
結果として入浴時間は
短くなったのでは
と思うのだが

面白いので
そのまま奉仕を
続けさせる事にする



拙さは残るとはいえ
二人とも処女の時から
何回も身体を重ねた身

自分を女にした陽物の
快楽のツボは感覚で
抑えているらしく

普段より
滑りの良いご奉仕で
情けなくもすぐに
何回も達してしまった

まあ落ちとして
結局三人一緒に
のほせ上がる事と
なるのだが

PM 21:11

明日の準備も終え
寝室に戻ると

姉妹がすでに
待機しており
ベッドに迎え入れられる

軽くスキんシップを
交わしながら
一日の疲れを
お互いに労りあい

今日も一日
お疲れ様でした…♡

疲れが残らないよう
いっぱい癒して
差し上げますね…♡

やがては恋人たちの
夜の営みへと
切り替わる



どちらからともなく
接触が増えてきた二人を
股座に座らせ



まずはいつも通り
姉妹二人一緒に
ご奉仕してもらう



幼い見た目の二人に
愚息を手放して
味わわせる光景は

嗜虐心と征服欲が
良い塩梅で刺激され
非常に興奮する

細い足を掴み
羞恥の声を上げるさとりへ
お構いなしに股を開かせ

愚息をあてがい
小さく狭いさとの腔内に
文字通り我が物顔で挿入する

なんやかんやと
お互いお預け状態に
なってしまったのだから

今夜はさとりにも
心ゆくまで
悦んでもらおう


こいしの方は
お仕置きするかのよう
尻をこちらへ向けさせ

無理矢理気味に
一気に根本まで
挿入する


姉と同様に
小さく狭い膣内は
全てを受け入れるように
異物を歓迎してくれた

腕を引っぱり
ぶつけ合うように
こいしの身体を
無遠慮に味わう


姉妹故に似たように思えて
微妙に違いのある膣内の感触を
交互に挿入しながら堪能する



小さいながらも懸命に
刺激を重ね
子種をねだって来る膣内



口・鼻・喉から
肺いっぱいまで
むせ返るような甘い香り



疲れを労るような
懸命なご奉仕を受けつつ
与えられる快楽に身を任せ

何も考えず
ただただ
この甘美な環境を
好き勝手に蹂躪する

そんな背徳的な行為に
得も言われぬ
快感を感じながら

地獄に咲く
二つの花の蜜壺を
心ゆくまで
貪り尽くさせて頂いた



AM 0:00



今日も一日
お疲れさまでした…♡

ちゅっ♡

明日もいっぱい
愛して
くださいね…♡

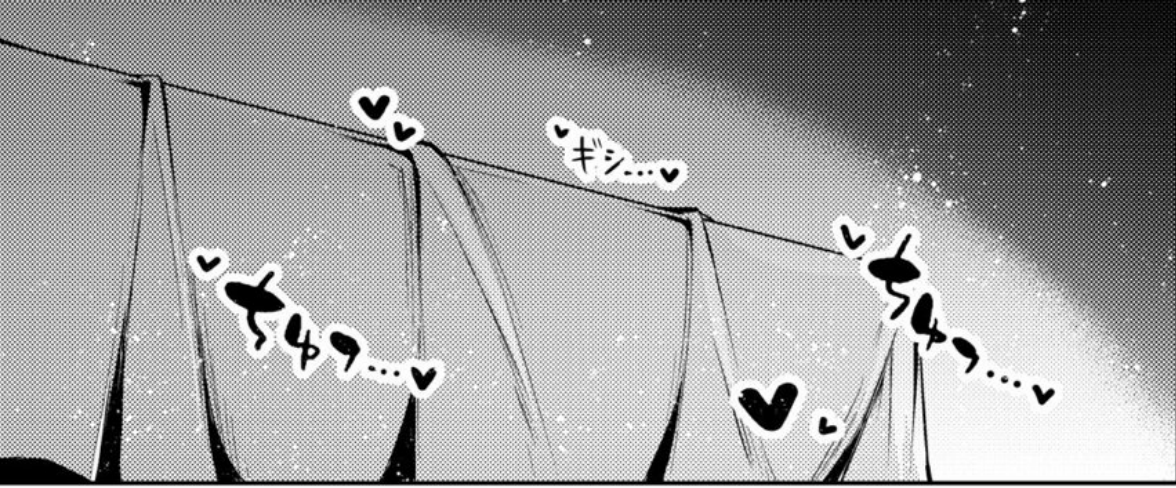
終



地霊殿
ハイレム

- closed β -

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止









和気

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

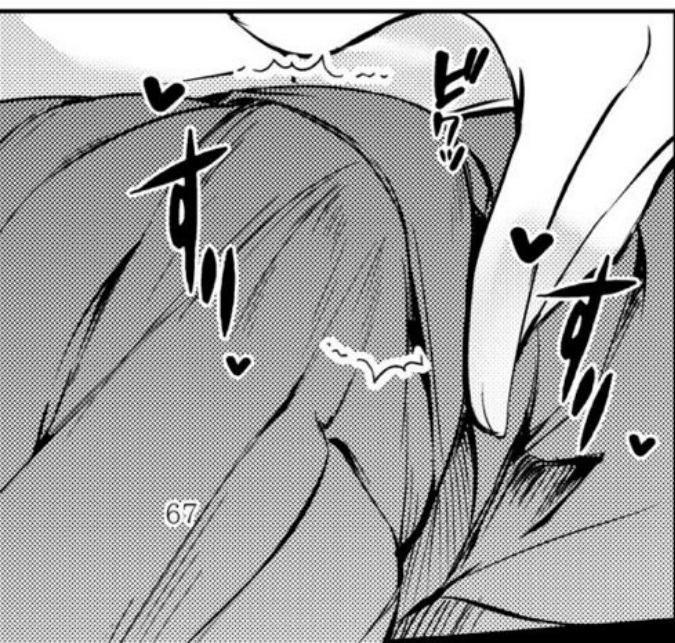
ハハハ

ハハハ

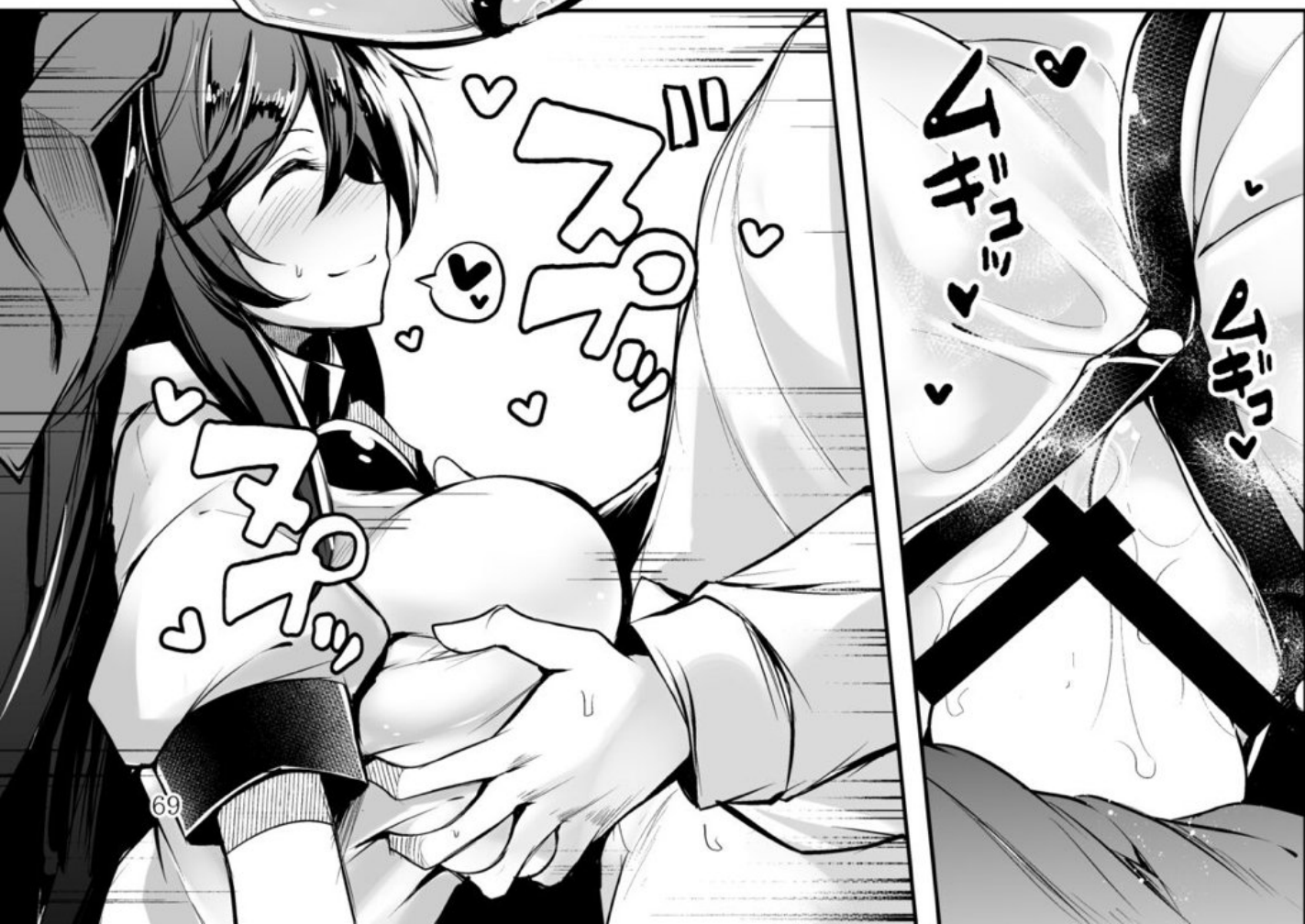
ハハハ

ハハハ

ハハハ









地獄の楽園に囚えられた
男の末路は記された。
書記からまろび落ちる虹はいつ見える。

地に昇る月はてらてらと
愚者を導いて枯れ果てる。

朝の光が
瞼越しの眼球を
刺激する

今日の起床は
顔が上がるより
頭が覚醒する方が
先だった

見ていた夢が
だんだんと
白く染まって行き、
纏まりのない思考で
頭の中が埋まっていく

ああ、
今日は身体が
重いなあとか

そういうのは
今日はお休み
貰ってたなあ、とか

水音もするから
雨かなあ、とか

そんな
半覚醒特有の心地良さを
振り払いながら
目を開けると



総集編描き下ろし
さとりの居ぬ間に。





今日は
お姉ちゃんが
お隣と朝早くから
地上に行ってるから……



代わりに
お兄ちゃん
の「処理」して
あげなさいって



頑張るから……
楽しんでね♪



下着越しの小さい尻が
ふりふりと揺れ
視界を楽しませてくれる



いやらしい水音と
下半身の温かい快楽

こちらからは見えない
というのも
非常に興奮する材料だ



すでに興奮していたのか
愛液を零す秘所を
舐めながら

内股で頭を抑え、
こいしの喉奥まで犯し
食道に精液を流し込む

んー……
まだ元気なの？



それじゃあ……

次は
こっちだね……♡



お姉ちゃんが
居ない間に
いっぱいしようねー♪





先程まで眼前に広がっていた
小さな小さな秘密の花園へ
愚息が乱暴に侵入していく

抵抗なくすんなりと
受け入れた
柔らかい膣内は

押し返そうと
するどころか
より深くまで侵略者を
歓迎してくれた

ぐわ...
びしょ...



あの小さいモノに
自分のモノを必死に
啜え込んでいる

その事を考えるだけで
股の方へ血が巡り
つい腰の動きが
激しいものになる

ぐわ...
びしょ...

先程の絶頂で
敏感になっており
すぐに果てそうになるのを
誤魔化すため

太ももを抑え
未発達な花園の一番奥……
子の部屋まで一気に蹂躞する

腰を打ち付ける度
人形のように
身体が跳ね

落ちてくる勢いに合わせて
またさらに奥深くまで
こいしと繋がっていく

指では届かない
奥深くまで
えぐってやると
大きな快樂の波に
小さい身体を震わせる



子壺を満たす侵略者が
膣口から
音を立てて溢れ出ると



最後は
こいしの絶頂に合わせ
最奥で精液を注ぎ込む



余韻に耐えきれないのか
情けない声を上げながら
べたりとこちらへ
身体を預けに来た



ねーねー
このまま一緒に
二度寝しちゃお！♡



しあわせー！♡

キス♡



いやいや
起こしに
来たんじゃないの
そう返答する
間もなく

おやすみー
お兄ちゃん……♡

絶頂の疲労で
そのまま
眠りに入ってしまった



こいしの寝顔を見ながら
そんなことを
考えている内に

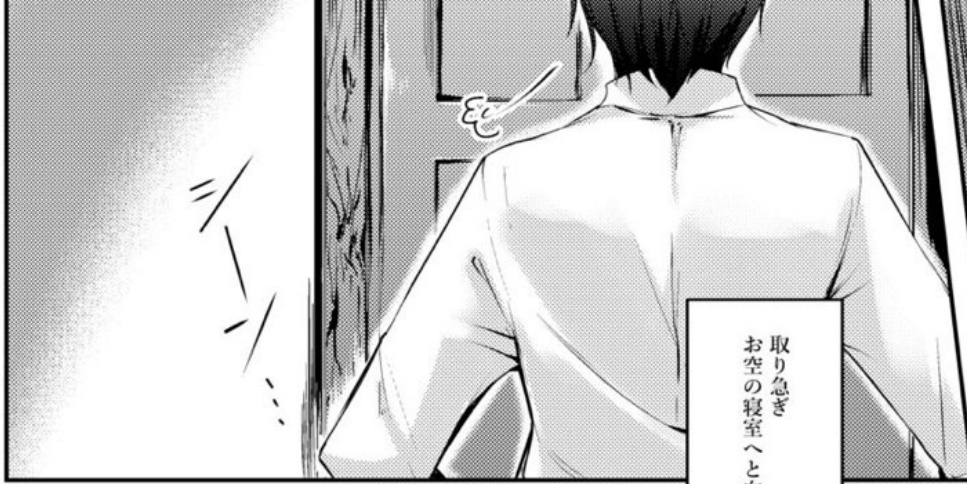
自分も再び夢の世界へ
引きずり
込まれていく



……まあ今日は
お休みだし……

温かいこいしの身体を
ずっと抱いてたりで
こちら少し眠気が……

次に目が覚めるのは
二人共
お昼過ぎであった



取り急ぎ
お空の寝室へと向かう



昨日の夜、同じ休日のお空を起こすようさとりに頼まれていた事を思い出し

お空ー？



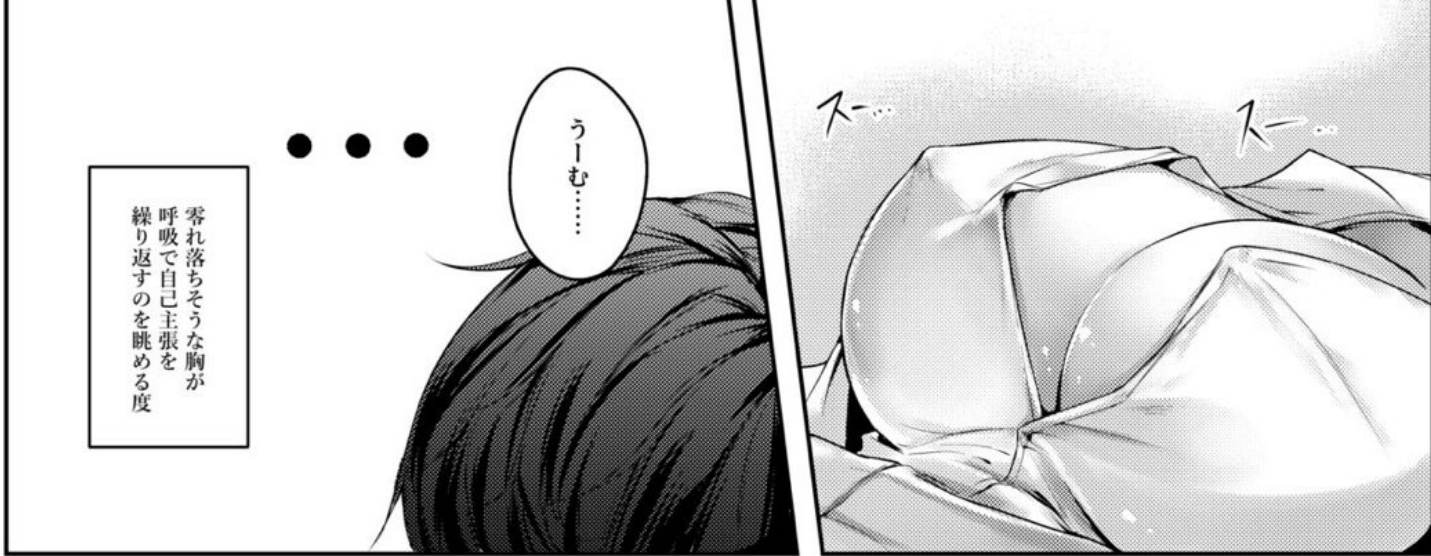
しかし
ノックへの返事はなく
仕方ないので
部屋に入ると



お昼過ぎだと言うのに
未だ幸せ熟睡状態の
彼女が居た

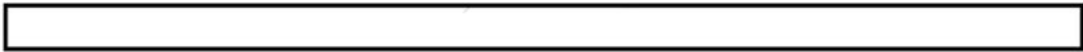
起こそうと近づく際
ふとさとりからの
言伝を思い出す





零れ落ちそうな胸が
呼吸で自己主張を
繰り返すのを眺める度

うーむ……



何をしても
起きないのでは、と
邪な考えが頭をよぎる

見るだけだから
揉むだけだから

吸うだけだから、と
際限なく欲望が膨らみ

舌舐め♡

ふっふっ♡



気づいた時には
ぐっすり眠る空の身体へ
馬乗りになり

その立派な胸の谷間に
愚息を挟み
好き勝手に扱っていた

おにゅ♡



彼女にとって
「えっちな事」とは
不浄的な物というより
気持ち良い事という認識であり

「好きな人が
喜んでくれる事
だから好き」止まりだ

この狼藉に
気づいても
許してくれるだろう

そんな
無垢な心に反して
たわわに育った
豊かな身体を
好き放題に味わう

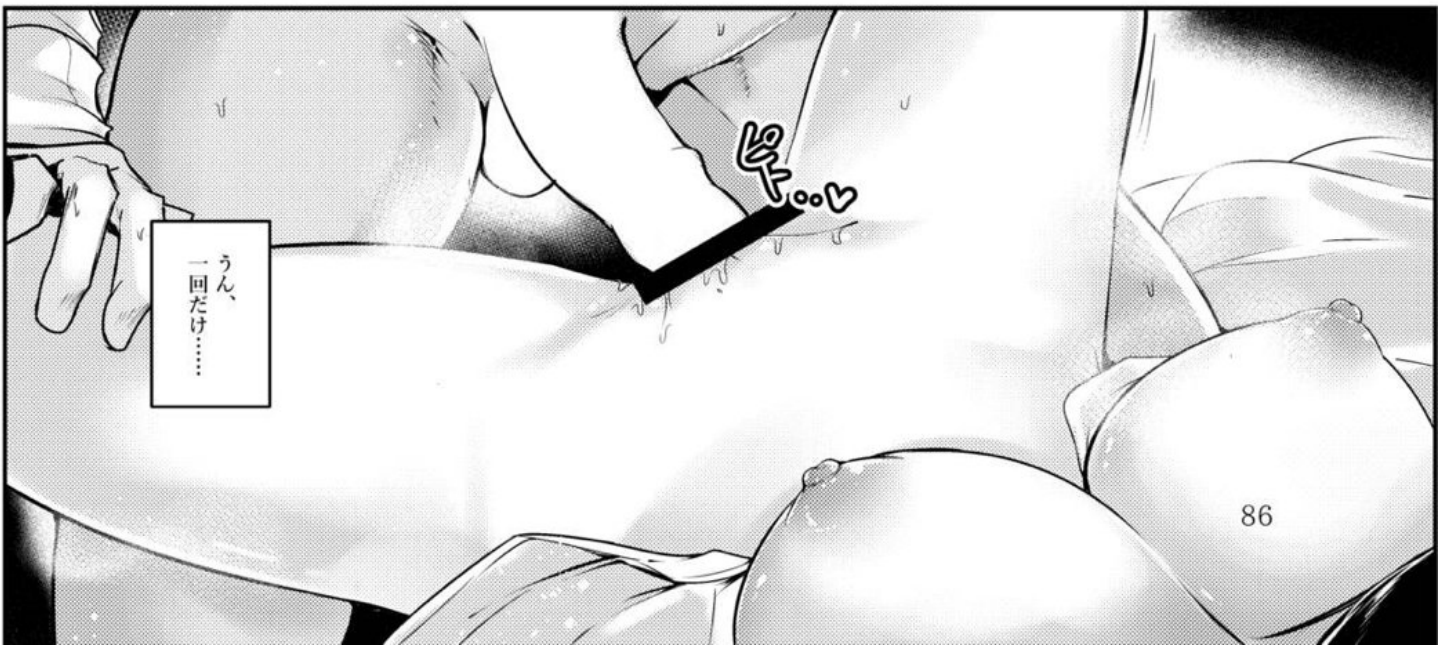
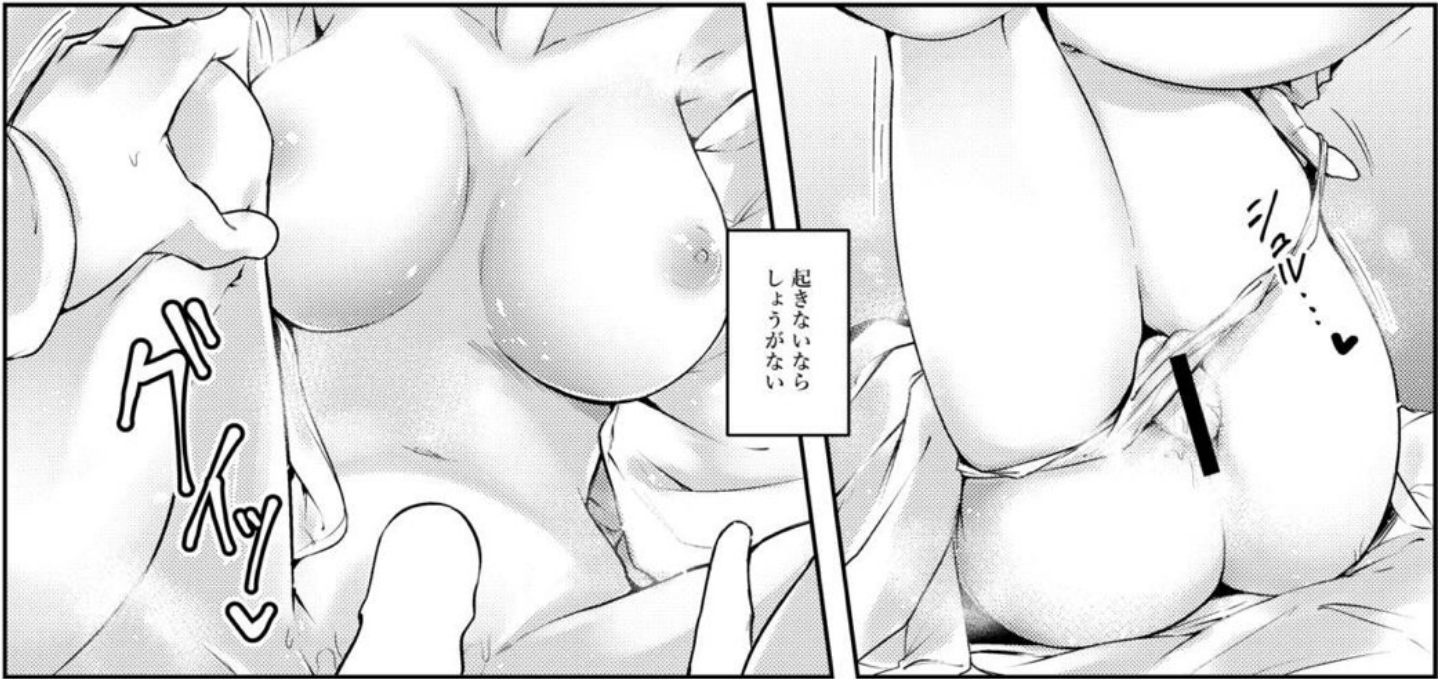
しかも
寝ている間に。



無知なのを利用し
増長しても
全てを許してもらえ
そんな今の状況に

罪悪感と背徳感が
同時にこみ上げ
立派な胸を
鷺掴みする手に力が入り

お空の幼さが残る顔に
白い欲望を
遠慮なしに吐き散らかす



気づけば頭の中で
謝罪の念が快感に
塗り替えられていく感覚の
虜になってしまっていた

膣内を擦り付ける度に
小さく体を震わせ
身をよじろうとする彼女を
逃がさないよう抱きしめる

今の状況と
同じような夢でも
見ているのだろうか

こちらを呼ぶ
可愛い寝言が
漏れ出した口を塞ぎ

五感すべてで
お空の無防備な身体を
味わい尽くす



—その後
寝ているお空に
三回隣内射精した

それでも彼女は
まだ起きなかった



どこにも
いないと思ったら……
お空の部屋に
居るとはねえ

いつの間にか
お空を抱きながら
眠ってしまった
いたようで

お隣の尻尾が
てしてしと
顔に当たる感触で
目が覚める

おーい
起きろー



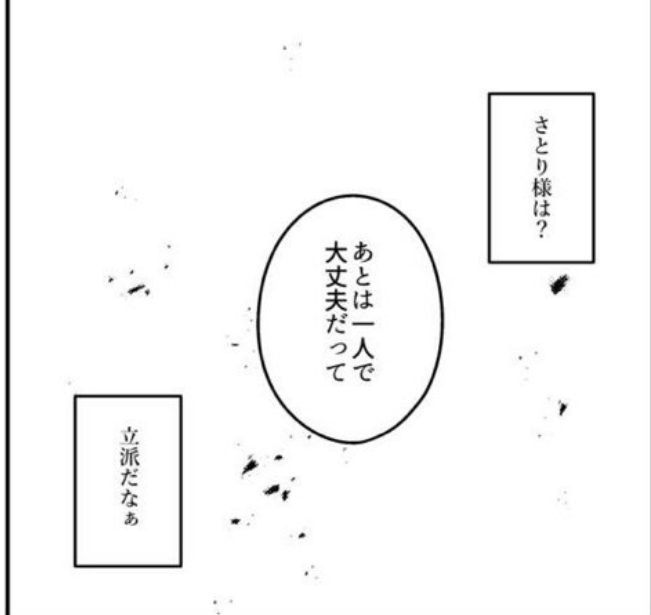
はいただいま
……もう
お昼過ぎだよ

おかえり
お隣



……お兄さんは
知らない
だらうけどさ

地上でお供も無し
こいし様も無しで
行動するなんて……



さとり様は？

あとは一人で
大丈夫だって

立派だなあ



……



……そんな
自覚は
ないけれどなあ



以前の
さとり様だったら
考えられなかったんだよ？

やっぱり
お兄さんが
隣に居てくれてる
おかげなんだろうねえ



ま、良い影響
与えてるって言うのは
間違いないって事で

それにしても……

オロ……

ハハハハ



羨ましい限り
みたいなの
光景ですなあ？

可愛い子片手に
絶賛情眠貪り中かい

幸せな休日
過ごしてるようで
大変結構

ハイ
今起きます



いや
いいよいいよ

オロ……



ここまで来たら寝て曜日にしちゃおう?

んっ


んっ

落ち着いた衣服に聳える自己主張の激しい双山が顔に押し付けられる




抱きとめるために伸ばした手が思わず細い腰を撫で

そのまま蠱惑的な曲線をなぞり形の良なお尻を撫で回すように動いてしまう



そのままぐるりと
体勢を変えさせ
お構い上から
押し掛かるような形になり

顎下や首回り、
尻尾の付け根から内股の辺りと
キスを落としながら
全身を隈なく愛撫していく



猫としての
習性なのか分からないが
身体を撫で回されるのが
好きなようで

緩急をつけてやると
普段のサバサバした性格からは
ほど遠い切なく甘い声が
口から漏れる



お隣の名前を呼ぶと
上気した表情で
こちらを一度
ちらと見た後



自分から
うつ伏せになり
腰をぐいと高く上げ

愛液でぐっしょりと
濡れた秘所を
こちらに向けてくる

再び元気を取り戻した愚息を
柔らかい膣肉で
包み込んであげようと

可愛くひくつかせ
待機している入り口へ
何度か擦り付けて



声の切なさが
一段と上がったのを
見計らい

一気に
奥まで挿入する



その反動を
受け止め切れなかったのか
身体が横向きに崩れ落ちる



お隣の身体が
快楽に跳動し



だがそんなのは
お構いなしに
ガクガクと震える
片足を持ち上げ
行為を続ける



途中、友人の寝顔に
見られながら
犯されている事を
告げると

羞恥で顔を埋めながら
膣内の具合が
キュンとキュンとなる

先ほどまで
好き放題犯していた少女の隣で
別の少女を組み伏し
まぐわっているこの光景は
こちらにとっても興奮する



愚息をキツク
包み込んでくる
膣肉を
奥まで抉り分け



全てを迎え入れようとする
子宮が降りてくるのを
愚息の先端で感じながら



お隣の最奥へ
存分に精液を放つ



射精が終わるまで
彼女の温かい身体を
ギュッと抱きしめ

あー……
やばい……
なんか
疲れと幸せで
どっと眠気が……

しばらくの間
お互い幸福感に
包まれていると

ごめん……
このまま……
おやすみ……

いつの間にやら
睡魔にも包まれて
しまったようで

心地良さを感じながら
四度寝へと
意識を手放すのに
時間はかからなかった



恋人の妹の
未発達な身体は
背徳的で
美味しかったですか？

無知と好意につけ込んで
寝ている娘へ
好き勝手に振る腰は
気持ちよかったですか？

甘言蜜語に唆されて
誘惑されるがまま
貪る熱情は
楽しかったですか？





—ええ、勿論

あの子たちだけで
あなたが
満足してるかどうか
心配で心配で—

大丈夫ですよ…♡

私が
もっと幸せにして
あげますから…♡

これからも、ずっと。

地天獄

2020年10月11日
東方紅樓夢(第16回)

発行・制作

碧^{みどりねこ}猫

midori0014@gmail.com

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

<https://twitter.com/midori14>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)

碧石 みどりねこ 猫